

ときを拾った澤田さん

豊橋技術科学大学 中森康之

澤田さんは、入学当初の自己紹介か何かで次のような話をされた。

大学院に行くかどうか悩みながら、海岸を散歩していたら、時

計が落ちていた。私はそれを拾い上げこう思った。

「ときを拾った」

それでここにくる決心をしました。

洒落た人だなあと考えた。このような澤田さんのお人柄に助けられ、仲良くなった私たちは、ほどなく皆でお宅にお邪魔することになった。

私たちを出迎えて下さった澤田さんの左胸に名札のようなものが貼ってあった。「デンテスト」。歯医者さん？ どういうこと？ だが謎は

すぐに解けた。澤田さんはゲームを企画されていたのだった。澤田さんはその司会者。だから「デンテスト」。やはりお茶目な人だ。

もう一つ強く感銘を受けたことがある。それはご家族。とてもいい感じなのである。お互いが信頼しあい、深い愛で結ばれている。そしてその愛がひとつとなって、家族全体を優しく包み込んでいる。

私も澤田さんのような家庭をもちたい。そのとき以来ずっとそう思い

続けていた私は、数年後、大変な失礼を承知で、披露宴の「デンテスト」

(司会)をお願いした。さらに奥様の真理子さんにも出席をお願いした。

私は、あこがれの澤田さんの司会に導かれ、魅力的で理想的な家庭を築かれた澤田さんと真理子さんに見守られて、新しい家庭生活の第一歩を踏み出したかったのである。澤田さんは、私の勝手な我が儘を受け入れて下さった。その他にも、一緒にかぎろいを見に行ったり、いろいろとお世話になった。

しかし大学院修了後はほとんど会っていない。体調を崩されたと聞いても、入院されたと聞いても、会いに行かなかった。人間的に成長し、澤田さんに読んでもらえる本が書けたら、それを持って会いに行こう、それまでは会いに行かない、と勝手に心に誓っていたからである。もちろん澤田さんには言っていない。「もう少し待って下さい、もう少し待って下さい」。私は心の中で、これまで何度も何度も繰り返した。しかし怠惰な私は、時間を無意味に過ごし過ぎた。それだけのときを拾い上げる時計は、もうどこにも落ちてはいなかったのである。